

## ナガイモ類 (ヤマノイモ科)

無病な種イモを選び、深く耕して乾燥防止のために敷きワラ等をする。

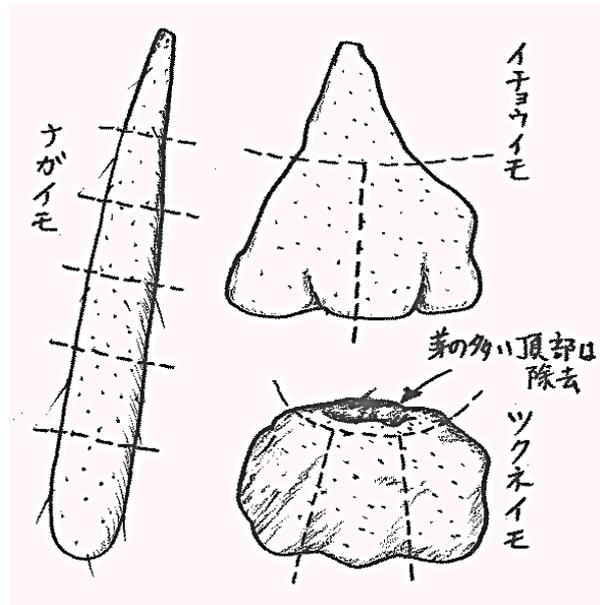
作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地					定植	—————						収穫	

### 1) 適地

ナガイモは耕土が深く排水のよい砂質土壌が適し、粘質土壌には向きません。イチョウイモは砂質土壌からやや粘質な土壌でも作ることができます。ツクネイモは乾燥に弱く、イモの肥大に多くの水分を必要とするので田んぼでも作ることができます。

### 2) 品種

ナガイモの仲間はある性の多年草で、大きく分けて、ナガイモ、イチョウイモ、ツクネイモに分けられます。



イモの種類

### 3) 作り方

【圃場の準備】ナガイモは、耕土の深さが80cm程度必要で、イチョウイモ、ツクネイモは40~50cm必要です。定植の1か月前に1㎡あたり堆肥3kgと苦土石灰150g、ようりん40gを施用し深く耕耘します。定植1週間前には高度化成肥料100gを施用し、ナガイモの場合は幅80cmの、イチョウイモ、ツクネイモの場合は幅60cmの畝を立てます。

【種イモの準備】切りイモ、子イモのいずれも種イモとして利用できます。切りイモの場合、ナガイモやイチョウイモでは首の部分は50g程度に、下の部分は80~100gに輪切りにします。ツクネイモは首の部分を除いて、50~70gになるように縦切りにします。腐敗防止のため、切り口が白くなる程度に日陰で乾かします。子イモを種イモとして使う場合は、切らずにそのまま植え付けます。子イモは、ムカゴを取って1年間養成して作ります。一般に、切りイモよりも子イモの方が発芽は揃いやすく、定植後に腐敗しにくいなどの特徴があります。

【定植】4月下旬頃が定植の適期です。ナガイモは畝の中央に深さ15cmの植え溝を掘り、株間30cmで種イモを植えつけ、5~6cmの覆土をします。イチョウイモとツクネイモは、植え溝の深さを10~15cmとします。乾燥しやすい畑では深めに植える方がよいでしょう。

なお、ナガイモではゴボウやジネンジョと同様に専用パイプや波板、畝シートを用いると、収穫作業が容易になります。

【芽掻き】芽が出そろったら、大きい芽を一つ残して、あとは早めに除去します。芽掻きをしないと小さな屑イモが多くなります。

【追肥・土寄せ】つるが伸びてきた頃とその1か月後および2か月後の合計3回、畝肩に高度化成肥料を1㎡当たりそれぞれ20g程度施用します。1回目と2回目の追肥の後には中耕・土寄せを行います。根が切れるのを防ぐため、あまり深く耕しすぎないようにしましょう。

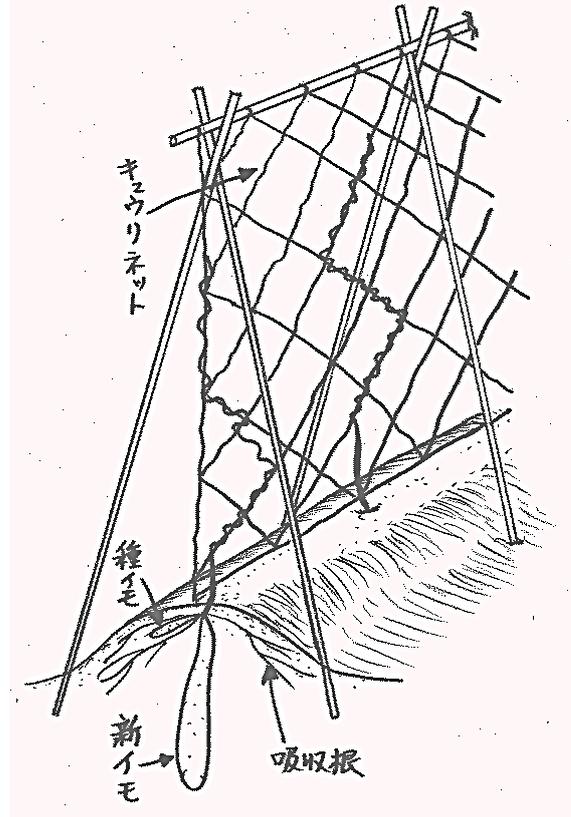
【支柱立て・敷きワラ】ナガイモはつるが長く伸びるので、1.8m程度の支柱を立て誘引します。つるの芽先をできるだけ上向きにすることがイモを太らせるために必要です。また乾燥防止のため敷きワラをします。イチョウイモやツクネイモの場合は地這栽培することもできます。

【灌水】特にツクネイモは乾燥に弱く、イモの凹凸の原因となりますので、夏は乾燥しないように灌水します。

【収穫】つるが黄色く枯れてきたら収穫します。ナガイモの場合はイモに沿って深い穴を掘り、イモを折らないように注意します。イチョウイモ、ツクネイモの場合は畝の片側から掘り、イモの位置を確認しながら、注意して掘り上げます。

#### 4) 病害虫防除

害虫では、ハダニ類、ヤマノイモコガ、アザミウマ類などがつきます。また、病害では、葉渋病、炭疽病が発生しますので、早めに防除します。



支柱の立て方